



顕 在 化

「私たちの敵は沈黙だ」 マクロン・フランス大統領夫人

「いじめ問題」で、元高校教師のマクロン・フランス大統領夫人は「私たちの敵は沈黙だ」と述べ、問題を表面化させて対処する必要性を訴えた。とG7の教育相の出した「いじめと闘う」G7宣言に関する報道で触れられていました。マクロン大統領夫人の言葉には普遍性があるようです。

中学生転落死亡事件問題の文教委員会が「秘密会」にされた後、「がん検診誤通知問題」で開会される厚生委員会までもが「秘密会にしてほしい」と、開会前に健康部からだいぶ粘られたとお聴きしました。

「プライバシー」を言い訳に、事の本質が十分分析され解明される機会を不当に奪う事は、あってはならないし、当事者にとっても事件、事故の原因本質を知る権利を妨げることになってはいけません。個人のプライバシーを十分守りつつ、40万人市民のあらゆる権利と、社会正義を保障する努力が求められます。

「読み合わせ」を「1人で行なう」事と理解

以前、確定申告時期に申告（個人）用紙を市民税の窓口で貰いに行きました。少し時期が早かったので「まだ、用紙は届いていないかな？」と思いながら、聞くだけ聞いてみようとして市民税窓口に出向きました。「確定申告の用紙は来ていますか？ 北税務署に行かなと、まだ有りませんか？」尋ねると、窓口の若い職員が「私は法人（担当）ですから、分かりません」と回答。若い職員の回答は「分かりません」だけでした。

同課内の個人市民税担当に聞く事も出来るし、北税務署に「有るかどうか」「いつ、岐阜市役所に送付されるか」電話する事も可能であり、大事な市民サービスですが？ その、気配はありません。「懸命な尋ね人」は「あ、そうですか、今から北税務署に行ってきます。」と言って市民税窓口を離れ、北税務署で用紙を貰いました。

「読み合わせ」は「同一内容の二つの文書を、一方が読み上げ、それを聞いている別の方が他方の文面を目で追いながら誤りを訂正すること」**明鏡国語辞典**です。がん検診の誤通知問題で「読み合わせを、一人で点検する事と、担当者が理解していた」との報告が厚生委員会にありました。私たちには「そんな事、常識だろう」と「思っただけの世界に住んでいる」との認識が必要なのかも知れません。

職員の資質以前の話ですが、こと「人命に係る話し」は「理解不足」では済まされません。（うら面に関連記事）

連絡先 岐阜市議会議員 松原のりかず 岐阜市沖ノ橋町1-21 でんわ 253-2500

今どき、3000件を超えるデータを手作業？

がん検診 誤通知問題

8月2日に、厚生委員会が開会され健康部から「がん検診誤通知問題」の経過と現状の問題点の報告がされました。胃がん検診は平成26年度の受診者4023人、27年度4184人、28年度3869人、29年度3757人、30年度3467人とあり、誤通知は30年度に3人（他誤通知は29年度に肺がん1人、乳がん1人）でした。

肺がん・結核検診は誤通知のある平成29年度は受診者8811人。乳がん検診の受診者は8227人。全てが中保健センターではありませんが、膨大な人数件数であることは確かです。「AI」が日常的にニュースされる時代に、手作業での点検が今日まで続けられていたことを、問題視しなければと思います。

市民の目に、目立つ事業に予算付け、基本怠る？

市民の健康管理を呼びかけるスマートウエルネスの予算編成がされて来ましたが、市民の目に付きやすい、表に出るイベントやフィットネスクラブ類似の事業に予算を付けながら、健康管理の基本である検査結果の正確管理のシステム設計に予算配分出来ていなかった市政。その背景に「目立ちたい」「宣伝したい」と「首長の選挙対策姿勢」があったならば、誤通知を担当部である健康部だけの問題とすることは、「担当者の不注意」だけを責めて「不注意論」「個人責任」に終わらせる事で根本解決とはならないのでは？ 容易にミスを予測出来る「人間1~2人だけの読み合わせ」点検に対し、「システム改善」を予算要求できなかった、気が付かなかったのは、健康部だけなのか財政部もなのか、当時の市長なのか？ この業務は「命に関わる」と感じなければならなかったのは、直接の「担当者」だけでは無いはずです。

スマートウエルネスを強調しながら、市民の人命優先の予算編成とは成っていなかったのでは？ との疑問が生まれるのは、私だけでしょうか？ 更には、手作業点検の労働実態を放置していた労働組合・人事課にも責任の一端はあるのでは？



松原のりかず
☎058-253-2500